

正社員就職に向けた ハローワークの相談・支援

ハローワークでは希望する方が正社員就職できるよう
個々の状況に応じたきめ細かな相談・支援を行っています。
どうぞお気軽に窓口にお越し下さい。



ここではハローワークの
相談・支援の概要を事例
とともに紹介します。

このような方が
相談に来られました。



●正社員求人に応募したことがなかった
Aさん（女性、30歳代）

→働く意義やこれまでの経歴を整理



●正社員に採用されたことがなかった
Bさん（女性、30歳代）

→不採用理由の分析と対策



●正社員就職したが定着できなかった
Cさん（男性、30歳代）

→職業選択とスキルアップの支援



●非正規雇用を希望していた
Dさん（男性、20歳代）

→職業の実態と本人の状況とのすり合わせ



●正社員就職をあきらめていた
Eさん（女性、40歳代）

→未経験職種へのチャレンジの支援



●非正規雇用か正社員か迷っていた
Fさん（男性、20歳代）

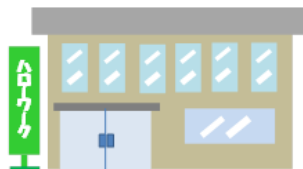
→将来の職業生活設計を一緒に検討



はじめに

- ◇ 近年、パートタイム、アルバイト、契約社員等正社員以外（非正規雇用）で働く方の割合が増加していますが、正社員と正社員以外を比較すると、正社員就職の方が、雇用が安定し、賃金が高い等のメリットがあります。
- ◇ このため、正社員就職を希望して、ハローワークに来所される方が多数いらっしゃいますが、これらの方の中には、ご自身の能力や適性の理解、希望する職業、労働市場、正社員と非正規雇用の違いなどの正確な理解、職業能力の習得などが必要な場合がみられます。
また、キャリア形成等の観点からは正社員が望ましいと思うものの何らかの理由で正社員以外を希望している方や、正社員か正社員以外かで迷っている方もいらっしゃいます。
- ◇ このようなことから、職業相談窓口においては来所される方自らが気づきを得て適切な自己理解、仕事理解を進め、キャリアプランや働き方を考え、主体的に求職活動を行い、正社員就職が実現できるよう専門的な相談・支援を行っています。
- ◇ この資料は、正社員就職についての希望や応募状況等が異なる A～F さんの事例について、支援の視点やハローワークの支援内容、A～F さんの変化、就職状況、正社員就職を実現したポイントを記載しました。
事例は主に職員・相談員の担当者制の相談により支援を行って、正社員就職を実現したものです。
なお、A～F さんの事例は実際の事例を基に作成していますが、経歴、職種、業種、環境等は一部設定を変えています。
- ◇ 正社員就職促進に向けてのハローワークの相談・支援について、就職を目指している皆さまにご理解いただければ幸いです。
- ◇ 事例において記載しているハローワークの支援方法や内容などは、来所された方の希望、能力、適性、環境、労働市場の状況等により異なります。また、支援内容の一部はハローワークによって行っていないものがありますのでご留意願います。

（注）文中の*を付した太字のことばの解説を 16 ページに記載しています。



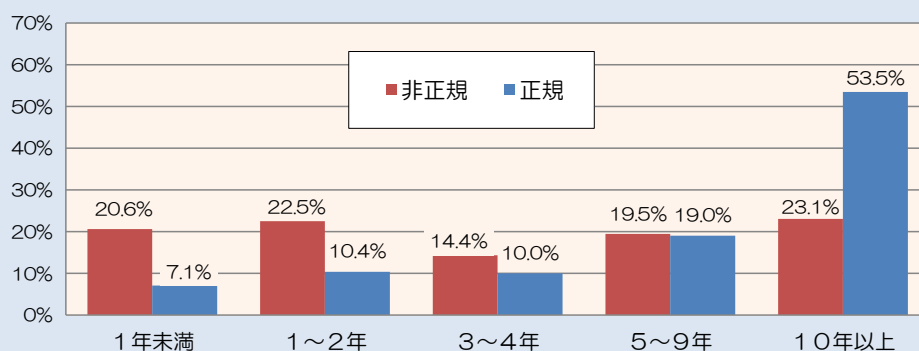
正社員就職の主なメリット

調査結果から、正社員と正社員以外（非正規雇用）の方の違いをみてみましょう。以下は統計的な値（割合や平均値）を示していますので、個々の求人については求人票の記載内容等をよく確認して下さい。

雇用が安定している

正社員は就業継続期間 10 年以上の人が 5 割を超えているのに対し、非正規雇用では 5 年未満の人が 6 割近くになっています（図 1）。また、平均就業継続年数は、正社員が 14.3 年、非正規雇用は 7.2 年です。このため、正社員の方が長期的な継続雇用となっているといえます。

図 1 現在の会社の就業継続期間別 労働者割合



（資料出所）総務省「就業構造基本調査」（平成24年）

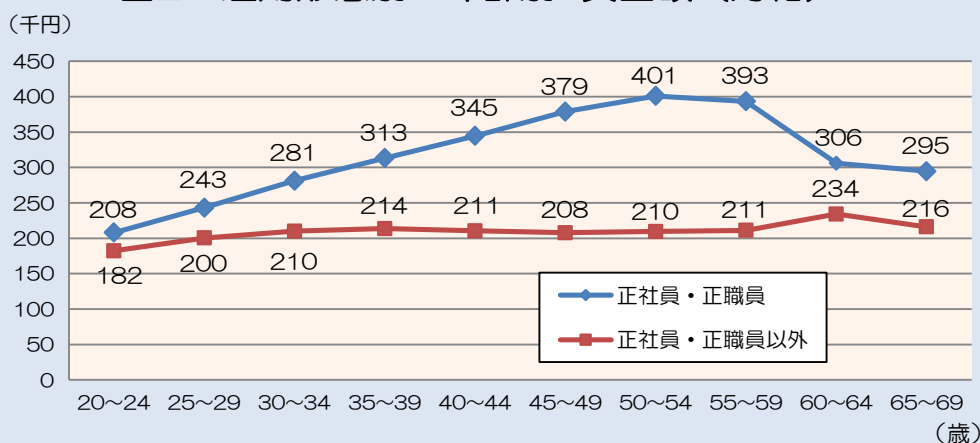
（注）1 「正規」は勤め先での呼称が「正規の職員・従業員」の者

2 「非正規」は勤め先での呼称が「パート」「アルバイト」「派遣社員」「契約社員・嘱託」「その他」の者

賃金が高い

いずれの年齢層でも正社員の方が正社員以外に比べると賃金は高くなっています。また正社員は 50 歳台前半まで賃金が上昇しています（図 2）。全年齢の平均賃金（月給）は正社員 32.2 万円、正社員以外 21.2 万円です。このため、正社員の方が賃金が高いといえます。

図 2 雇用形態別・年齢別 賃金額（月給）



（資料出所）厚生労働省「賃金構造基本統計調査」（平成28年）

（注）1 賃金は所定内給与

2 「正社員・正職員」は事業所において正社員・正職員とする者

3 「正社員・正職員以外」は「正社員・正職員」に該当しない者

また、正社員の方が正社員以外に比べると、OFF-JT（通常の仕事を離れて行う教育訓練）、OJT（業務に就きながら行う教育訓練）を実施した事業所の割合が大きい、労働・社会保険、企業年金、退職金、財形、賞与等の適用の割合が大きいといった調査結果もあります。

以上のことから、正社員として働く方は、自己の経済的自立、家計の安定、中長期的なキャリア形成、将来の生活の見通し等を得やすいといえるでしょう。

正社員求人に応募したことがなかった A さん(女性、30 歳代)

●A さんの状況

- 30 歳代です。
- 短大卒業後ずっと家にいましたが、3 年前に地域若者サポートステーション*の支援を受け、現在、クリーニングの会社で衣類の仕分け、包装、検品のパートの仕事をしています。仕事を始めて1年半になります。
- 仕事を始めてからもずっと「私は社会に出て働けるのだろうか」といった不安がありました。半年、1 年と過ぎていくうちに、その不安は少し薄らいできました。しかし一方で、時給が低いのではないか、もっと自分の力を活かすことができ伸ばしていけるような仕事はないだろうかと感じ始め、その頃から、職場の同僚の人たちともだんだんうまくいかなくなりました。
- そこで、転職して正社員で働くことができるか相談に来ました。



●A さんへの支援の視点



- 1 年半仕事をして少し不安が取り除かれ、職場の環境に目が届き始め、疑問がでてきたようですが、その理由をよく考えていく必要があるようでした。
- また、1 年半の仕事経験により、自分の能力やクリーニングの仕事が続けることで得た能力をよく理解することがよいと思われました。
- まだ、「自分が社会に通用するか」といった不安があるようなので、その軽減、除去のための支援が必要と思われました。

●ハローワークの支援 → 働く意義やこれまでの経歴を整理



○職業観の分析

- まず、A さんの職業観*を伺うことにしました。職業観は職場定着や長期的キャリア形成の視点からも重要です。働く意味や意義、働くことを通じて何を実現したいかについて話を聞くと、職場の同僚とは目指すものが異なっていることが明らかになりました。これが転職希望の背景になっていました。

○職務経歴の棚卸し*

- 次に職務経歴の棚卸しをしました。1 年半就業継続できている理由、日々の意識、取組内容、職務遂行の変化などを振り返ってもらいました。同時に自信は小さな成功体験*の積み重ねにより獲得できる、としっかり伝えました。1 年半かけて得た変化 (= 小さな成功体験)、その変化の積み重ねや相乗効果を理解してもらい、自信の獲得をめざしました。
- 以上による A さんの自己理解の経過を踏まえて、具体的な求人応募に当たっては、応募先企業の求めること、応募先企業で自分ができること、応募先企業の社風や方針が自身の職業観と合致するかを考えて、履歴書・職務経歴書を自分の言葉で書き出すことを促しました。

●Aさんの変化

- 相談の中で、自分が、手先の器用さを生かし、モノづくりを大切にする集団の中で、技術力を伸ばしていける働き方や職種に興味があることを確認できました。パート勤務を続けて少し自信がついてきたうえ、自分の本当にやりたいことに気がつきました。
- 働き続けてこれたのは、自分で時間管理や健康管理ができること、職場での協調性、感情コントロールができた結果と捉えることができました。日々数字を意識して仕事に取り組んでおり、その結果、入社当時よりも2倍の生産性をあげていることがわかりました。
- 応募書類を相手の視点で書くことの重要性がわかりました。応募企業についてインターネットで調べて企業の理念、作業環境、キャリアアップの考え方を知りました。



●Aさんの就職

- 自動車用品を製造販売している会社に就職が決定しました。
- 仕事は各種の自動車用品製造に係る作業です。手先の器用さが求められる作業です。
- この会社は工程ごとに作業を分担し、一工程に集中して習得できる環境があります。習熟度に応じて難しい工程へとキャリアアップできるのです。
- まだ、他の社員の方より仕事は遅いですが、ものづくりはやりがいがあります。もっと成果をあげ一工程ずつマスターしていきたいと思います。



●正社員就職を実現したポイント



- 職業観について見つめ直し、Aさん自身がやりたいことが明確となったこと、成功体験（できること）の洗い出しにより、不安の軽減と自信獲得といった効果を得ることができたこと、また、求人企業を自ら調べる中でAさんの職業観と合致する人材育成方針をもつ企業を見出すことができたことから納得のいく転職につながったのだと思います。
- また、長期間のブランクから求職者を働く現場に導いた地域若者サポートステーションの支援やAさん自身の努力も就職実現の要因です。
- 相談から就職までの期間は約8か月です。就職2か月後電話によりフォローアップを行ったところ、Aさんからはやりがいをもって取り組んでいると伺っています。

正社員として採用されたことがなかった B さん(女性、30 歳代)

●B さんの状況

- ・30 歳代です。大学卒業後、アパレル業界で4年間勤務しました。1 年更新の契約社員で、仕事は接客、商品ディスプレイ、商品管理などです。
- ・これまで生活はできていましたが、将来を考えると年齢的にもこのままではいけないと思い、事務系の仕事で正社員就職を希望しています。
- ・正社員求人に応募していますが不採用が続いています。だんだん自分に自信がなくなってきました。



●B さんへの支援の視点



- ・B さんは自分だけで就職活動をした結果、採用に至らず、自信を喪失していました。このため、不採用の理由の分析が必要だと思われました。
- ・また、応募に際し、面接の対応、自己表現、応募書類の作成について支援が必要と思われました。

●ハローワークの支援 → 不採用理由の分析と対応支援



自分だけの就職活動での不採用による自信の喪失と職業に対する考え方が明確でないことが考えられるため、以下の支援を行いました。

○仕事の振り返り*

- ・B さんの自信の回復のため、契約社員での仕事について、具体的な内容と学んだことをジョブ・カード*の職務経歴の様式を使って振り返ってもらいました。
- ・実際に事務職求人を見ながら、事務職の種類（一般事務、営業事務、経理事務等）や必要なスキルについて説明しました。

○労働市場*の説明

- ・事務職は競争が厳しいが、現在、正社員の求人倍率が高くなってきているなど管内及び通勤圏内の労働市場について説明をしました。
- ・一緒に複数の職業訓練（パソコンスキル、経理関係、Web 関係、総合的な事務スキル関係）を検討し、必要性を十分理解してもらったうえで**公共職業訓練の受講あっせん***をしました。

○面接の振り返りと励まし

- ・訓練修了近くから、一緒に求人の検討、面接準備、求人応募、面接不採用時の振り返りと励ましなど応募支援を行いました。

●Bさんの変化

- ・ジョブ・カードの様式で職務経歴を振り返ると、だんだん責任のある仕事をやってきたことがわかり、自己PRにつながる材料に気がつきました。
- ・実際に求人票を見て事務職の種類と習得すべき技能がわかり、努力すべき方向性が見えてきました。
- ・気持ちが明るくなり、自分から、相手の質問や表情などに注意して落ち着いて話ができるようになり、少しずつ自信がついてきました。
- ・職業訓練により、簿記の知識、パソコンスキルの習得、コミュニケーション能力の向上を図ることができました。また、受講生から刺激を受け、積極性を持つことができました。
- ・面接で不採用になると落ち込みますが、ハローワークの方と振り返りをすると、その経験を次の応募に役立てようと前向きになれました。



●Bさんの就職

- ・建設業の会社に一般事務職の正社員で就職することができました。
- ・紹介に当たってハローワークの方から私のこれまでの経験、仕事に対する考え方等を説明していただきました。
- ・安定した収入を得られ、両親からの経済的自立もできてよかったです。
- ・職業訓練では初級の簿記の知識も習得したので、今後、経理事務もできるよう、資格取得などの勉強をして自分の力を伸ばしていきたいと考えています。



●正社員就職を実現したポイント



- ・自信の回復・獲得と、あきらめずに就職活動ができたことが正社員就職を実現したポイントです。
- ・Bさんは不採用が続き来所時に自信を失っていたので、まず、これまでの職歴の振り返りによって気づきを支援しました。その後も訓練受講から就職までの期間、技能習得が難しい場合や応募しても不採用になった場合、不安になり自分の目標を失い迷いが生じたり、自信を失ったりしました。そのため、本人が体験したことや感じたことを受け止め伝え返しながら支援を行いました。また、事業所のニーズの的確な把握に努めました。
- ・Bさんがこれらの支援により頑張ってくれた結果だと思えます。
- ・相談から就職までの期間は約7か月です。

正社員就職したが定着できなかった C さん（男性、20 歳代）

●C さんの状況

- 20 歳代です。
WEBデザインやゲームアプリ開発の仕事に就くのが夢です。
- プログラミングの仕事がしたいと思って、運送会社を辞め雇用保険の手続きでハローワークに来ました。そのときに紹介してもらって今の IT の会社に転職しました。
- 入社して半年経ちましたが、なかなかプログラミングの仕事が覚えられず教えてくれる人もなく困っていました。そんなとき、ハローワークから定着支援のアンケートが届いたので相談に来ました。



●C さんへの支援の視点



- IT 企業への就職は C さんにとっては新しい業界への転職であり、また就職してまだ半年なので業界についての知識がやや不足している面があると思いました。
- 就職後、仕事に必要なプログラミングについて自ら学ぶ機会が少なかったため、仕事が覚えられなかったようでした。IT 職種で就職するためにはプログラミングに関する基礎的な知識とスキルを習得する必要があると考えられました。

●ハローワークの支援 → 職業選択とスキルアップの支援



- まず、ソフトウェアの開発は日々進歩していく分野であり、社員一人ひとりが、自発的に自分の能力を高めていくことが求められることを説明しました。
 - その上で C さんの将来の夢とプログラミングに対する思いや考え方を話してもらいました。
- 求職者支援訓練*
- 退職した際にプログラム開発に関わる言語や知識の不足等、再就職に向けての課題が明確となったため、訓練受講をあっせんしました。
(支援中に本人が退職)
 - 応募先を決定するため、職業訓練修了者応募可能、トライアル求人*、研修制度ありなどの条件により求人を絞り情報提供しました。
 - 応募後面接で不採用が続き、また焦りが見て取れたため、採用面接後フォローアップを行いました。

●Cさんの変化

- プログラミングの知識の不足は会社に頼るのではなく自分で習得していかなければならないことがわかりました。
- そこで会社を辞めて職業訓練を受けることを決断しました。
- 求職者支援訓練のプログラミング関連の科（6か月）を受講して、基礎的な知識と技能を身につけることができました。また、他の受講生との交流を深めることにより、客観的に自己を振り返ることができるようになりました。
- 求人の応募に当たっては、面接で数社不採用になり、他の受講生の就職決定を聞いて焦りましたが、ハローワークの方と不採用の要因と対策を考えることで気持ちが落ち着きました。



●Cさんの就職

- ソフトウェア開発、システム開発の業種の会社の正社員で就職が決まりました。仕事はプログラミング作業、システム開発に係る作業です。
- 最初に就職した会社では自分一人ではなかなか作業が進まず、先輩社員に一から教えてもらいながら補助的な作業をしていました。マニュアルをみてもわからないことが多かったです。
- 今回就職した会社では、まだ簡単な仕事をしていますが、職業訓練でプログラミング言語の基本的な勉強をしたので、仕事の上で役に立っています。また、この会社は人材育成に力を入れていて、いろいろなレベルの研修制度があるので積極的に受講して勉強を続けていきたいと思っています。



●正社員就職を実現したポイント



- 相談においては C さんの気持ちや考え方を話してもらうようにした結果、その後の支援と本人の求職活動が進んだことが挙げられます。
- また、プログラミングを生涯の職業と考え、自身の技能不足を理解して技能習得のため会社を辞めることを決断したことです。
- C さんは**職業訓練受講給付金***と貯金の切り崩しで6か月間の訓練を修了し、次の採用を得るまで全力で目標に向かうことができたことも挙げられます。
- 相談から就職まで約 12 か月です。

非正規雇用を希望していたDさん（男性、20歳代）

●Dさんの状況

- 20歳代です。大学では工学部の電子工学科に入学しましたが、目標を見失って中退しました。職歴はファストフード店で店員や配達のアルバイトを1年半したことがあります。
- 小学生の時から習っている英会話を活かした就職をするため、さらに上の資格取得を目指しています。その間のアルバイトを探しにハローワークに来ました。



●Dさんへの支援の視点



- Dさんはアルバイトを探しに来たのですが、よく話を聴いてみると、語学を活かせる職業の現状や正社員と非正規雇用の違いなどの理解が不十分であることがわかり、それに合わせた支援が必要とされました。
- 大学時代に学習してきた理系の学習内容やアルバイト経験を活かせる可能性もありました。
- アイコンタクトが少し苦手なようなので面接で自分のよいところをうまくアピールできるよう支援したいと思いました。

●ハローワークの支援 → 職業の実態と本人の状況とのすり合わせ



○職業の現状の説明

- まず、常に語学を活かせる正社員職種は狭い範囲となり、求人もあまりなく競争も厳しくなることなどを伝えました。またDさんが語学を活かしてどんな仕事がしたいか考えてもらうことと、海外に取引のある会社などもあるので幅広い視野で選択していくことを助言しました。

○アピールポイントの整理

- 次にこれまでの大学での学習内容やアルバイトなどを振り返ることができるよう、詳しく話を伺いました。学生時代のサークル活動などもアピールポイントとして加えていくことも提案しました。

○個々の状況に応じた解決策の提案

- Dさんが対人関係面で積極性をもってもらうよう、ハローワークで開催している若者が求職活動について情報交換などを行うグループワーク*のセミナーへの参加を勧めました。（注:グループワークは一部のハローワークで不定期に実施しているものです）
- また、業界理解のため、企業説明会*で企業の方の話を聞いてみることも提案しました。

●Dさんの変化

- 自分のやりたい仕事を説明しようとしてみると、初めは英語を活かして何をしたいのか、自分が社会に何の役に立ちたいのかなかなか考えがまとまりませんでした。そこで、若者対象のグループワークのセミナーに参加しました。セミナーでは他のメンバーから自分にはない考え方や表現の仕方などを聞き刺激を受けました。
- また、企業説明会へ参加し、製造業の数社と面談し、会社の理念や求める人材、人材育成の考え方などを伺って、製造方面に企業の成長と自分のキャリアがみえてきました。ポーダレス、国際化が進む中で、語学力はいろいろな面で役に立つ可能性があることもわかりました。
- このような結果、製造関係の仕事で正社員を目指すことにしました。



●Dさんの就職

- 電気部品製造業の会社に就職が決まりました。職種は製品設計業務で正社員です。
- 大学で学んだ電子工学の知識が評価されました。海外向けの製品もあり英語が役に立つこともありそうです。そのために英語の勉強は続けていきたいと思います。



●正社員就職を実現したポイント



- Dさんは英語をみたくことを考えてアルバイトを希望していましたが、相談の過程で語学を活かして自分自身が何をしたいのか不明確なことに気づき、セミナーや企業説明会に参加しました。
- セミナーでは、他の参加者から自分にはない考え方を発見して刺激を受けたようです。説明会では自身の理系の知識が評価されることに気づき自信を持てたことがよかったです。
- 採用面接では、学生時代の学習内容、アルバイト経験なども積極的にアピールすることができたことも挙げられると思います。
- ハローワークで行う支援メニューの提案を受け入れ、意欲的に取り組んでもらったことが就職につながりました。
- 相談から就職までの期間は約3か月です。

正社員就職をあきらめていた E さん（女性、40 歳代）

●E さんの状況

- 40 歳代です。未就学の子どもが二人います。介護の専門学校を卒業後、高齢者の介護施設で約 5 年の勤務経験があります。結婚後、退職し 10 年間専業主婦でしたが母子家庭となりました。
- 介護職は体への負担が大きく夜間勤務もあるため、事務的な仕事を希望しています。実務経験も資格もないので職業訓練を希望し、ハローワークに相談にきました。
- 正社員では育児との両立は無理なので、パートでできるだけ収入の多い仕事に就けるといいのですが・・・。



●E さんへの支援の視点



- E さんは母子家庭の母となったことや仕事上のブランクがあることなどから不安を抱えているようでした。このため、E さんが話しやすいように相談を進めていくと、正社員就職をあきらめていたのは、「未経験者で応募できる求人がない」「小さな子どもがいるので仕事を継続できない」と思っていたことが分かり、希望条件の明確化と順位付けが必要と思われました。
- 希望している事務職は仕事の上では未経験のためパソコンのスキルアップが必要と思われました。

●ハローワークの支援 → 未経験職種へのチャレンジの支援

E さんが話をしやすいように留意しながら以下の相談を進めました。

○希望条件の明確化と順位付け

- まず、賃金、勤務場所、休日、勤務時間などの客観的な基準と、働くことを通じて実現したい願望部分とを分けて伺い、優先順位と希望の明確化を進めました。
- また、専門学校で介護を目指した理由、これまでの職業経験を伺い、振り返りをしてもらいました。希望の事務的な仕事とはどんな内容を考えているのか尋ねました。

- 次に希望する条件をもとに、事務職で、正社員と正社員以外の両方で検索し、一緒に求人票を見て、勤務条件等を確認しました。
- 未経験で不安を持っていたため、紹介の際には、E さんの職業訓練受講や資格取得を伝え、求人者の意向を確認するなど、希望に合わせたフォローをしました。

（正社員希望後）

○職業訓練

- パソコン事務基礎の求職者支援訓練の受講あっせんを行いました。
- 応募先を決定するため、一緒に求人情報を見ながらの検討、求人票記載の事業所情報の確認、事業所ホームページを見ての情報収集について助言を行いました。また、経歴書を、希望職種に向けて書くこと、面接に役立つ内容にすること、本人の言葉で書き出すこと等についても助言を行いました。



●E さんの変化

- 相談の中で、自分の気持ちが経済的自立だということがはっきりしたので正社員希望がでてきました。また、賃金、休日などの条件と勤務時間帯、急な子供の対応は近所に住んでいる母に預けることができることが整理できました。
- これまでの振り返りにより、結婚等で仕事継続ができなかったことを思い出し、定着して長く働きたいという気持ちに改めて気づきました。
- また、相談をしていくうちに仕事を通じてお年寄りとの関わりを大切にしたいという気持ちが明確になってきました。そこで、地域密着の高齢者の介護事業所や福祉施設で働きたいと思うようになりました。
- 職業訓練では、日々習得していることが実務に繋がる実感があり、必要なことがわかりました。ワードとエクセルの基本スキルを学び、PC スキルの文書作成とデータ活用の資格も取得できました。
- 未経験だから難しいと思い込んでいましたが、正社員就職の可能性もあるのだとわかりました。
- 応募書類に子育てとの両立意欲と親族から提供してもらえるサポートの内容も書くことができました。



●E さんの就職

- 地域の高齢者介護サービスの事業所に事務スタッフの正職員として就職することになりました。仕事の内容は、サービス利用や施設運営に係るパソコン入力事務、電話対応、来所者対応・相談などです。
- 介護の仕事経験が活かせ、お年寄りと接することができるのでよかったです。
- 今後は、介護保険の事務を勉強して、できる仕事を増やし、5年後、10年後の自分の姿を想像して長く勤めていきたいです。



●正社員就職を実現したポイント



- 本人のおかれた環境や気持ちに即した支援をしましたが、これに沿って職業訓練を受けるなど E さんが積極的な行動をとれたことが正社員就職に繋がったポイントだったと思います。
- E さんは母子家庭の母となり、育児との両立、仕事のブランクや未経験職種の理解の不足により不安を抱えていました。このため、相談を通して仕事理解と自己理解を深め、徐々に不安がなくなり、勤務条件や仕事について気持ちや考えが整理されてきました。
- また、求人票を見ての情報収集により、仕事に必要とされる技能の理解が深まり、職業訓練受講により、自信もみえてきました。
- そして、仕事をする上で大切にしてきたことを言葉にすることができるようになり、どのような場所で、どのように働きたいか、自身の希望をはっきりさせることができました。
- 相談から就職までの期間は約5か月です。就職後2か月後に E さんに電話で職場の状況や仕事内容などについて伺ったところ、自分に合った仕事であり続けていきたいとの話がありました。

非正規雇用か正社員か迷っていた F さん(男性、20 歳代)

●F さんの状況

- 20 歳代です。専門学校を卒業し美容師の免許があります。
- しかし、美容師の仕事は向いていないと思い、別の職種でアルバイトとして就職しました。印刷会社の製本の軽作業で機械操作の補助、検品、梱包などを 3 年くらいしました。アルバイトを退職後雇用保険受給手続きのためハローワークに来ました。
- どんな仕事がいいか、正社員がいいかアルバイトにするか迷っています。以前からイラストなど描いていて絵が好きでデザイン関係の仕事があればいいなと思っています。また、将来を考えると正社員で就職した方がよいと考えていますが、アルバイトも自由でいいなと思います。
- デザインの仕事は経験がないので、関連の職業訓練を受けたいのですが・・・。



●F さんへの支援の視点



- F さんは、自分の職業について一生の仕事という点から正社員就職を考えはじめていますが、アルバイトの自由さから、迷っている様子でした。
- デザイン関係の仕事についても就職しようとする職種の具体的なイメージはなく、どんな仕事があるかこれから調べていく必要がありそうでした。
- 美容師以外の職業の教育訓練を受けたことはなく、また正社員としての経験もないことから、正社員就職のためには職業能力の習得が必要と思われました。

●ハローワークの支援 → 将来の職業生活設計と一緒に検討



- 就職に関して長期的なキャリア形成*の考えをもっていなかったため、ライフプラン*も含めて、徐々に理解を深めていくよう相談を進めました。

○応募書類作成による振り返り

- 自身の能力や強みなどを適切に理解してもらうため、**応募書類の作り方***の資料を基に履歴書と職務経歴書を作成してもらい、振り返ってもらいました。振り返りの中では免許取得まで取り組んだ美容師が向いていないと考えた理由(技術面、対人面他)も踏まえて相談を進めました。

○職種の解説

- 次に応募を考えているデザイン職種の知識が不足していたため、求人票など各種資料による説明、パソコンソフトを使用した作品を提示しました。
- 非正規雇用社員と正社員の違いが理解できていなかったため、最近の雇用情勢の資料や正規非正規双方の求人票を提示し、勤務時間、賃金等の諸条件の違いを説明しました。
- デザイン職種、正社員希望を確認した上で、IT 広告デザインの職業訓練のカリキュラムの内容、職業能力開発校への入校手続きについて説明しました。

○模擬面接*

- 訓練終盤から具体的な複数の応募候補求人の説明、見方の説明、ホームページ閲覧の助言、応募求人に適合した応募書類作成支援、模擬面接を実施しました。



●F さんの変化

- 将来のライフプランを自分で考えてみると、これからの長い職業生活の中で正社員就職がよいと思うようになりました。
- ハローワークの方から正社員求人が増えているグラフを見せていただいて、自分にも正社員になる可能性があると思い、正社員応募へがんばってみようと思いました。
- デザイン関係の求人票を説明していただいて、具体的な実際の求人職種と仕事内容がわかり、自分の希望する職種がはっきりしてきました。また、採用側が考える知識、技能がわかり、技能習得する必要性、目標が明確になりました。
- IT 広告デザインの職業訓練（5 か月）を受講しました。
- 応募に当たって、ハローワークの相談で、求人企業のHP 閲覧、応募書類作成の助言、模擬面接による面接対策などの支援を受け、気づきや自信がでてきて本番に備えることができました。



●F さんの就職

- 看板製作、サイン広告、店舗設計を行う会社に、パソコンソフトを使用して看板等のデザイン制作を行う仕事に正社員として就職が決まりました。
- 職業訓練（IT 広告デザイン）を受講したことにより、会社が使用しているパソコンソフトの基本的な使用方法を習得したことがよかったです。
- パソコンを利用する職種なので、パソコン自体の進化と使用ソフトのバージョンアップにあわせてこれからも自己研鑽が必要だと考えています。



●正社員就職を実現したポイント



- 自己の振り返りや希望職業の理解、正社員で働くことと職業キャリアの重要性に気づいたことから、自己の働き方が明確になったことが大きいと考えます。
- また、模擬面接を実施し改善点がみえたことから、履歴書・職務経歴書等の作成・添削を複数回実施することになりました。特に応募職種がデザイン系であることから、デザイナーとしてのセンスを応募書類で確認されるため、記載欄の文字のバランス、丁寧に書くことについて、繰り返し助言しF さんが応えてくれたことも就職実現の要因でしょう。
- 併せて、使用したパソコンソフトは職業能力開発校では基本的なレベルであったことから、志望動機だけでなく、就職後の技術習得の心構え等を説明できたことも採用という結果をもたらしたと考えています。
- 相談から就職までの期間は約 10 か月です。就職後ハローワークの相談員が事業所訪問した際に仕事を続けていると伺っています。

*のことばの解説

P 4	地域若者サポートステーション	働くことに悩みを抱えている若者に対し、専門的な相談、コミュニケーション訓練などによるステップアップ、協力企業への就労体験などにより、就労に向けた支援を行っている施設です。厚生労働省が委託した NPO 法人、株式会社などが実施しています（全国 173 か所（平成 29 年度））。
	職業観	仕事をするうえで何を大切にするかです。どのような分野の仕事がしたいのか、仕事内容か、会社の安定性か、労働条件か（勤務時間、場所、給与など）、家庭生活か等何を大切にしたいのかの働き方をしたいのかの考え方です。
	職務経歴の棚卸し	今までの職務経歴について、勤務先、仕事内容、役割等を振り返り、職業に関する知識・技能、実績、成し遂げたこと等を確認することにより、自己の強みやアピールポイント等の気づきや整理、自信の回復等を図ることでです。
	成功体験	人には個々人の生活、学業、仕事、対人関係など様々な場面があります。このような場面で、今までできなかったことができるようになったこと、あるいは行ったことがなかったことをうまくできた経験です。仕事面では一つずつの職務ができるようになることなどがあげられます。
P 6	振り返り	求職活動を行うに当たって、職業選択や働き方などを考えていくために、今まで行ってきた仕事を思い出し確認することです。その仕事内容、やりがい、生きがい等を確かめることによって、あるいは支援者に話すことによって、求職者の方が自ら気づきを得ることです。
	ジョブ・カード	ジョブ・カードは、個人の履歴や職業経歴の棚卸し、キャリアプラン等を記入できる様式です。これらを記入しながら、職業能力の開発や職業選択を考えることができます。「生涯を通じたキャリア・プランニング」のツールとして活用することができます。
	労働市場	労働力の需要（求人数）と供給（求職者数）の動向です。各ハローワークでは求人数、求職者数、その比率である求人倍率の統計を利用者に提供しています。
	公共職業訓練の受講あっせん	公共職業安定所長が求職者に対して公共職業訓練の受講指示、受講推薦等を行うことです。職業相談の中で、適職への就職を実現するため職業能力の開発向上が必要と認める場合に行うことができます。
P 8	求職者支援訓練	主に雇用保険を受給できない求職者（受給が終わった方も含まれます）を対象とした、就職に必要な職業スキルや知識を習得するための職業訓練です。受講料は無料（テキスト代等は自己負担）。
	トライアル求人	短期間（3 ヶ月以内）試しに雇用し求職者と求人者両者がその求人の仕事に適しているかを確認して両者が合意すれば正式に雇用するための求人です。
P 9	職業訓練受講給付金	主に雇用保険を受給できない求職者（受給が終わった方も含まれます）がハローワークの支援指示により公的職業訓練を受講するために受け取ることができる給付です。一定の要件があります。
P 10	グループワーク	同じ目標や課題がある求職者数人がリーダーの助言のもと情報交換、意見交換を行い、解決のヒントや共感、気づきを得て課題解決を図るグループ活動です（一部のハローワークで不定期に実施しているものです）。
	企業説明会	複数の企業、求職者がハローワーク庁舎内外の会場に集まり企業説明、求人説明、業界説明などを行うものです。集団での説明、個々の求職者に対する説明などがあります。
P 14	キャリア形成	職務経歴や教育訓練の受講等を積み重ねていくことによって職業能力の形成を行っていくことです。
	ライフプラン	人生設計のことです。職業生活、家庭生活、地域生活、経済面、健康面などから、若年、中年、老年など年代に応じて生ずるライフイベント（就職、結婚、育児、介護、引退等）を想定して考えた計画のことです。
	応募書類の作り方	求人に応募する際には「履歴書」の提出を求められることが一般的です。「応募書類の作り方」は履歴書を中心に応募書類作成に当たっての注意点やポイントについて記載したパンフレットです。職務経歴書の書き方、送付する場合の送付状の書き方や封筒に入れる際の注意点も記載されています。
	模擬面接	実際に応募する求人企業の採用面接を想定して、ハローワークの担当者が採用面接者役となって質問し、求職者の方が受け答えの練習をすることです。